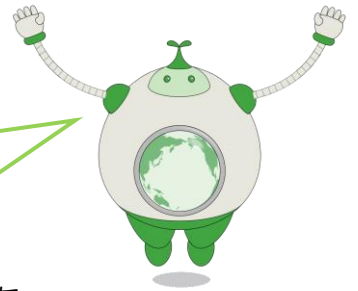


ごみを燃やした熱を利用して、発電し、 電気を売っています！！

令和4年5月の売電収益は、
9,665万1,234円でした。



第五工場（焼却施設）は高効率ごみ発電施設として建設されました。

最大発電効率^{※1}は、下記の条件の時、設計値で26.3%です。

- 2炉同時運転（第五工場は200t/日の炉が2つあります）
- ごみの低位発熱量^{※2}が11.34MJ/kg（2700kcal/kg）

現時点では、国内トップクラスの発電効率です。令和2年度の環境省の調査では国内297施設中、20%超えは54施設です。

環境省 令和4年3月29日発表 「一般廃棄物処理事業実態調査の結果（令和2年度）について」より

この高効率を実現するため、さまざまな設備が導入されています。

代表的な設備は以下のとおりです。

- **高温、高圧ボイラ**：蒸気タービン・発電機へ送る蒸気のエネルギーを高めています。
- **エコノマイザ**：焼却時に発生する排ガスの余熱を利用し、ボイラに送る水を温めています。
- **復水タービン**：蒸気の持っているエネルギーを最大限に利用し、高効率の発電を実現しています。

※1 発電効率とは、ごみを焼却した際に発生する発熱量から回収できる電気エネルギー量の割合のことです。

※2 低位発熱量とは、ごみに含まれる水分が気体になるときに必要な熱量を差し引いた「ごみを燃やした時に発生する熱量」として、ごみ質を表す指標のひとつとして使用されます。ごみ中の水分が少なければ、この数値は高くなり、よく燃える燃料といえます。



第五工場敷地内を色々な草木で緑化しています。

6月はあじさいが満開です。